

# 拡大教科書ポイント

数研出版株式会社

## 1. 全体的な留意点

「教科用拡大図書の標準的な規格」に即して、各仕様を決定しています。なお、通常の教科書（原本教科書）であっても、その見えやすさは大切な事項であり、白色度を少しおとした用紙の使用などは、原本教科書と拡大教科書で変わりありません。

## 2. 教科固有の留意点

数学の教科書には、数字や記号、アルファベットが多数用いられていますが、それらを単に大きくするだけでは、必ずしも見えやすく読みやすいものになるとは限りません。そこで、その書体を吟味の上、ほとんどすべての文字の書体を変更することで、バランスのよい見えやすさ・読みやすさを実現しています。和文の場合、基本となる明朝体からゴシック体への変換は一律に行うことができますが、複数の書体から構成される数式の細かな変換は、数学科固有の工夫といえます。

このことは、各種図版における文字・記号・数式についても同様です。

## 3. その他の留意点

見えやすさに配慮する一方、内容的なまとまりにも留意して、学習しやすい教科書を目指しました。

たとえば、標準的な規格では、「原本教科書の1ページを概ね2~3ページに収まるように配置する」と定めていますが、本書では原本の1ページが概ね3ページに配置され、原本の1ページが4ページで再構成されたページも少なくありません。教科書は様々な要素で構成されており、それらは互いの関係を保ちながら、読み進められるようになっています。そのため、1つの構成要素ができるだけ裏ページにまたがることのないよう、また、互いの関連が明確になるように留意しながら、レイアウトを変更しています。その結果として、ゆったりとした理解しやすい紙面構成を実現しています。

なお、各章の扉のように、見開き一面にわたって構成されたページであっても、その内容の区切りを工夫して拡大し、レイアウトを変更しています。